

ひ、(20)義勇公に奉じ、(21)天壤無窮の皇運を扶翼すべし、二十一であります。この一々の徳目に就て聖旨の在る所を申し上げたいと思ひますけれども時間に限あることであるから、徳目は二十一と數へて置きまして、是がどういふ種類になるかといふことを觀たいと思ひます。

私はこの勅語の中には初めに申した通り、日本の國民としての道徳といふ事だけではなくて、第一に國家の天職理想が明かに示されて居ると思ふのであります。それは

國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ

と仰せられたのは、我が大日本帝國の天職とその理想とを告示しになつて居ると思ひます。「宏遠」といふは舊く長い事と字では思はれますけれども、過去の時間の永いことは、未來に又天壤無窮の永き時間を有つて居てなることを意味する、これは唯だ時が永いといふのではなくして、時の永いのは大きな仕事を爲さるといふ事を意味する。「悠久は物を成す所以なり」と中庸にあるが如く、又法華經に於て釋迦如來は久遠實成の如來であるといひ、如來は常住にして滅せずと説かれしは、本佛の大活動がその中に示されて居るのであります。國を肇むること宏遠に、天壤と窮りなく續きたまふといふ事は、偉大なる事業を達成なされることを示してあるので、即ち我國の天職が時間の言葉で示されたのである。法華經に、佛は常住である、『我れ佛を得てより來た經たる所の諸々の劫數無量百千萬億載阿僧祇なり』と云つてあるやうな風に、國を肇むること宏遠にといふのは、非常なる大活躍を意味して居るのであり、それは建國當時の理想が鮮かに示されて居るのであります。

それから「徳を樹つること深厚」といふ、この我國の徳がどれ程深く且つ厚いものであるかといふ事に相成りますと、この「深厚」の二字に於て様々なる意味を解釋しなければならぬと思ひます。即ち一は天業を恢弘し、一は天下を光宅する、一は國家を經營するといふやうな事で、實に宇宙的の觀念も、この「徳を樹つる深厚」といふ